令和7年度

脇町中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 一人一台のタブレット端末を活用した個別最適化の学習と協働的な学びの実践
- おどろきと発見のある授業づくりを通じた主体的・対話的で深い学びの実現

校長

松尾 正規

学力向上推進員

松原 梢

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告、学び合いウイーク等の様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題やテスト勉強に計画的に取り組む、知識・技能を身につけようとしている生徒が多い。 ○ICT機器を利用し、基礎・基本の習得に向けて意欲的に取り組もうとする生徒が多い。 ●知識・技能の定着が十分でない生徒がいる。 ●他の人の意見を取り入れたり、身につけた知識を関連付けながらまとめたりして、学びを深めることに課題がある。	・授業の目標を理解し、見通しをもって学び、学習内容の理解度や習得度が把握できる。 ・家庭学習を充実させ、基礎的・基本的な知識や技能を他の学習や生活の場面においても活用することができる。 ・ICTスキルと情報モラルを身につけ、信頼できる情報を集めて課題の解決をめざすことができる。	・生徒の興味・関心を喚起させるような授業づくりのため、明確な説明を心がけ、指示・発問の仕方を工夫する。 ・授業の終わりに目標に沿った振り返りを行う。 ・他学年や他教科の教員が相互に授業参観を行い、互いに学びあう。 ・タブレット端末等を活用して朝学習の時間や家庭学習で基礎的・基本的な内容の復習を行い、確実な定着を図る。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えをまとめたり発表したり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる生徒が多い。 ○タブレット端末等を利用して自らの考えを整理したり表現したりすることに意欲的に取り組む生徒が多い。 ●課題に応じて必要な情報等を取捨選択したり、根拠を明らかにして自分の考えを相手に伝えるようにまとめたりすることに課題がある。	・授業中の課題等に対して、話し合い活動等を通して解決する方法を考えることができる。 ・習得、活用、探究の場面において、適切な言語活動を行い、自分の考えを表現することができる。 ・情報を取捨選択して調べた内容を整理し、他者にわかりやすくプレゼンテーションすることができる。	・学級担任や教科担任を中心に、生徒が安心して自己表現ができる学級づくりを積極的に行う。 ・ICT機器やホワイトボードなどを活用し、話す・書くなどの言語活動を単元ごとに実施する。 ・ペアワークやグループ活動などを取り入れた学習活動を行い、自分の意見を表現する機会を増やす。 ・発表の場面では質疑応答を取り入れるなど、思考力や表現力をより深める工夫をする。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いた学習態度で授業に臨むことができ、計画的に課題に取り組もうとする生徒が多い。 ○タブレット端末を利用した学習活動に意欲的に取り組もうとする生徒が多い。 ●不得意な教科の学習内容に対して、自分で計画を立てて学習を進めることに課題がある。 ●学習内容が定着するように学習方法を工夫したり、粘り強く学習を続けたりしようとする態度はまだ十分に育っていない。	・学習に取り組む上で望ましい授業のマナーを身につけている。 ・学ぶ意欲をもち、わかる喜びを実感しながら、目標に向け計画を立てたり、達成のための見通しをもって粘り強く取り組んだりすることができる。 ・課題の解決に向けて試行錯誤しながら解決方法を見つけ出し、達成感をもつことができる。	・生徒の実態を踏まえ、個に応じた指導の工夫に努める。状況に応じて前向きに励ましながら指導・助言し、生徒の頑張りを認める。 ・成果を可視化し、次の学習の動機づけにつなげる。 ・タブレット端末等を利用した学習の記録を活用し、適切な指導と助言を行う。 ・粘り強く課題に取り組めるよう、課題の量や内容を見直すとともに、家庭との連携を密にする。			